

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

アリルアミン系抗真菌剤

日本薬局方 テルビナフィン塩酸塩クリーム
テルビナフィン塩酸塩クリーム 1% 「NIG」
TERBINAFINE HCl

剤形	クリーム剤
製剤の規制区分	なし
規格・含量	1g 中テルビナフィン塩酸塩 10mg を含有する。
一般名	和名：テルビナフィン塩酸塩 洋名：Terbinafine Hydrochloride
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	承認年月日：2006年2月20日 薬価基準収載：2022年6月17日 発売年月日：2006年7月7日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	販売：武田薬品工業株式会社 発売元：日医工株式会社 製造販売元：日医工岐阜工場株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ https://www.nichiiko.co.jp/

本IFは2022年6月改訂（第9版，承継に伴う改訂）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ
<https://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<https://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

【IFの様式】

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

【IFの作成】

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IFの発行】

- ① 「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	V. 治療に関する項目	6
1. 開発の経緯	1	1. 効能又は効果	6
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 用法及び用量	6
II. 名称に関する項目	1	3. 臨床成績	6
1. 販売名	2	VI. 薬効薬理に関する項目	7
2. 一般名	2	1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	7
3. 構造式又は示性式	2	2. 薬理作用	7
4. 分子式及び分子量	2	VII. 薬物動態に関する項目	8
5. 化学名（命名法）	2	1. 血中濃度の推移・測定法	8
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	2	2. 薬物速度論的パラメータ	8
7. CAS登録番号	2	3. 吸収	9
III. 有効成分に関する項目	3	4. 分布	9
1. 物理化学的性質	3	5. 代謝	10
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	6. 排泄	10
3. 有効成分の確認試験法	3	7. トランスポーターに関する情報	10
4. 有効成分の定量法	3	8. 透析等による除去率	10
IV. 製剤に関する項目	4	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	11
1. 剤形	4	1. 警告内容とその理由	11
2. 製剤の組成	4	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	11
3. 用時溶解して使用する製剤の調製法	4	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	11
4. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意	4	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	11
5. 製剤の各種条件下における安定性	5	5. 慎重投与内容とその理由	11
6. 溶解後の安定性	5	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	11
7. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	5	7. 相互作用	11
8. 溶出性	5	8. 副作用	11
9. 生物学的試験法	5	9. 高齢者への投与	12
10. 製剤中の有効成分の確認試験法	5	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与	12
11. 製剤中の有効成分の定量法	5	11. 小児等への投与	12
12. 力価	5	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	12
13. 混入する可能性のある夾雑物	5	13. 過量投与	12
14. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	5	14. 適用上の注意	12
15. 刺激性	5	15. その他の注意	12
16. その他	5	16. その他	12

IX. 非臨床試験に関する項目	13
1. 薬理試験	13
2. 毒性試験	13
X. 管理的事項に関する項目	14
1. 規制区分	14
2. 有効期間又は使用期限.....	14
3. 貯法・保存条件	14
4. 薬剤取扱い上の注意点.....	14
5. 承認条件等.....	14
6. 包装.....	14
7. 容器の材質.....	14
8. 同一成分・同効薬.....	14
9. 国際誕生年月日	14
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	14
11. 薬価基準収載年月日	14
12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等 の年月日及びその内容.....	15
13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその 内容.....	15
14. 再審査期間.....	15
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	15
16. 各種コード.....	15
17. 保険給付上の注意.....	15
X I. 文献	16
1. 引用文献	16
2. その他の参考文献.....	16
X II. 参考資料	16
1. 主な外国での発売状況.....	16
2. 海外における臨床支援情報	16
X III. 備考	17
その他の関連資料.....	17

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本剤は、テルビナフィン塩酸塩を有効成分とするアリルアミン系抗真菌剤である。

「テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「タイヨー」」は、武田テバファーマ株式会社（旧大洋薬品工業株式会社）が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、2006年2月20日に承認を取得し、2006年7月7日から販売を開始した。（医薬発第481号（平成11年4月8日）に基づき承認申請）

2022年6月1日、武田テバファーマ株式会社から日医工岐阜工場株式会社に製造販売承認が承継され、その際に販売名の屋号を「タイヨー」から「NIG」に変更した。

2022年6月17日に薬価収載され、日医工株式会社が販売することとなった。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

(1) 本剤は、テルビナフィン塩酸塩を有効成分とするアリルアミン系抗真菌剤である。

(2) 副作用（頻度不明）として過敏症（そう痒症、紅斑、発疹、蕁麻疹、血管浮腫）及び適用部位（接触皮膚炎、発赤、刺激感、鱗屑、落屑、皮膚亀裂、湿疹、皮膚乾燥、疼痛、色素沈着、皮膚灼熱感）が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「NIG」

(2) 洋名

TERBINAFINE HCl

(3) 名称の由来

一般名より

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

テルビナフィン塩酸塩 (JAN)

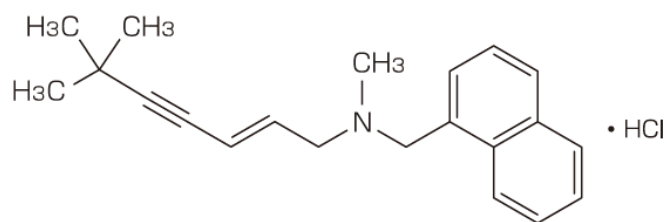
(2) 洋名 (命名法)

Terbinafine Hydrochloride (JAN)

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : C₂₁H₂₅N · HCl

分子量 : 327.89

5. 化学名 (命名法)

(2*E*)-*N*,6,6-Trimethyl-*N*-(naphthalene-1-ylmethyl)hept-2-en-4-yn-1-amine
monohydrochloride (IUPAC)

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

別名 : 塩酸テルビナフィン

7. CAS登録番号

78628-80-5

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色～微黄白色の結晶性の粉末である。

(2) 溶解性

メタノール，エタノール(99.5)又は酢酸(100)に溶けやすく，水に溶けにくい。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点），沸点，凝固点

融点：約 205℃（分解）

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

1.0g を水 1000mL に溶かした液の pH は 3.5～4.5 である。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 紫外可視吸光度測定法

本品のメタノール溶液につき吸収スペクトルを測定し，本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき，両者のスペクトルは同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

(2) 赤外吸収スペクトル測定法

塩化カリウム錠剤法により試験を行い，本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき，両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

(3) 定性反応

本品のエタノール溶液は塩化物の定性反応（2）を呈する。

4. 有効成分の定量法

電位差滴定法

本品を酢酸に溶かし，無水酢酸を加え過塩素酸で滴定する。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 投与経路

外用（経皮）

(2) 剤形の区別，外観及び性状

性状：わずかに特異なおいがある白色のクリーム

(3) 製剤の物性

該当資料なし

(4) 識別コード

なし

(5) pH，浸透圧比，粘度，比重，安定な pH 域等

該当資料なし

(6) 無菌の有無

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

販売名	テルビナフィン塩酸塩クリーム 1% 「NIG」
有効成分・含量	1g 中：テルビナフィン塩酸塩 10mg (1%)
添加物	ステアリルアルコール，セタノール，パルミチン酸セチル，ベンジルアルコール，ポリオキシエチレンセチルエーテル，ポリソルベート 60，ミリスチン酸イソプロピル，モノステアリン酸ソルビタン，pH 調節剤

(2) 添加物

（「IV. 2. (1)有効成分（活性成分）の含量」の項参照）

(3) 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

3. 用時溶解して使用する製剤の調製法

該当しない

4. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意

該当しない

5. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

加速試験（40℃，75%RH，6 ヶ月）の結果，テルビナフィン塩酸塩クリーム 1% 「NIG」は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

◇テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「NIG」 加速試験 [最終包装形態]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <白色のクリーム剤>	K8YC 6WWS OHWS	適合	適合	適合	適合
含量 (%) ※1 <95.0~105.0%>	K8YC 6WWS OHWS	98.6±1.4※2	99.2±1.2※2	100.3±2.2※2	101.4±1.9※2

※1：表示量に対する含有率 (%) ※2：平均値±標準偏差 (SD)

6. 溶解後の安定性

該当しない

7. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

（「XⅢ. 備考」の項参照）

8. 溶出性

該当しない

9. 生物学的試験法

該当しない

10. 製剤中の有効成分の確認試験法

薄層クロマトグラフィー

試料溶液から得た主スポット及び標準溶液から得たスポットの R_f 値は等しい。

11. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

検出器：紫外吸光光度計

移動相：リン酸，テトラメチルアンモニウムヒドロキシド溶液，アセトニトリル，テトラヒドロフラン混液

12. 力価

該当しない

13. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

14. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

15. 刺激性

該当資料なし

16. その他

該当記載事項なし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

下記の皮膚真菌症の治療

- (1) 白癬：足白癬，体部白癬，股部白癬
- (2) 皮膚カンジダ症：指間びらん症，間擦疹（乳児寄生菌性紅斑を含む）
- (3) 癬風

2. 用法及び用量

1日1回患部に塗布する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

アゾール系抗真菌薬, ベンジルアミン系抗真菌薬, チオカルバメート系抗真菌薬, モルホリン系抗真菌薬

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序²⁾

アリルアミン系抗真菌薬で, 真菌細胞膜の主成分であるエルゴステロールの合成を阻害し膜機能を障害するが, 作用機序はスクアレンエポキシダーゼの阻害である。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当記載事項なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

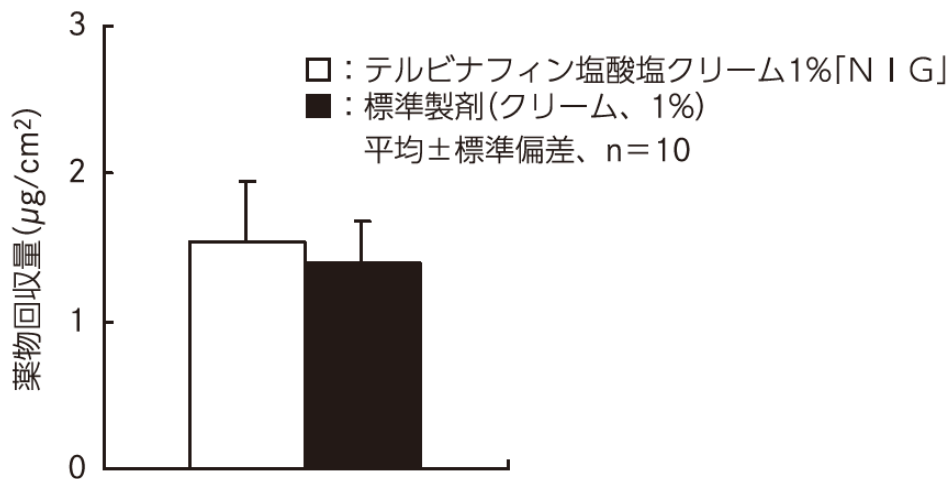
該当資料なし

3. 吸収³⁾

<テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「NIG」>

局所皮膚適用製剤の後発医薬品のための生物学的同等性試験ガイドライン (平成 15 年 7 月 7 日 薬食審査発 0707001 号)

テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「NIG」と標準製剤を、それぞれ 0.5g (テルビナフィン塩酸塩として 5mg) 3箇所ずつ健康成人男子前腕部に 4 時間塗布して角層中未変化体濃度を測定し、角層からの薬物回収量について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。



薬物回収量

	適用量* (mg/箇所)	薬物回収量 (μ g/cm ²)
テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「NIG」	5	1.536±0.411
標準製剤 (クリーム、1%)	5	1.388±0.296

*テルビナフィン塩酸塩としての適用量

(Mean±S.D., n=10)

角層中濃度並びに薬物回収量は、被験者の選択、角層の剥離回数・適用時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

(「VIII. 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当記載事項なし

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当記載事項なし

7. 相互作用

（1）併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

（2）併用注意とその理由

該当記載事項なし

8. 副作用

（1）副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

（2）重大な副作用と初期症状

該当記載事項なし

（3）その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には、使用を中止するなど、適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症	そう痒症，紅斑，発疹，蕁麻疹，血管浮腫
適用部位	接触皮膚炎，発赤，刺激感，鱗屑，落屑，皮膚亀裂，湿疹，皮膚乾燥，疼痛，色素沈着，皮膚灼熱感

（4）項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

（5）基礎疾患，合併症，重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

（6）薬物アレルギーに対する注意及び試験法

1) 禁忌：本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。

2) その他の副作用：過敏症（そう痒症，紅斑，発疹，蕁麻疹，血管浮腫）があらわれた場合には、使用を中止するなど、適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

該当記載事項なし

10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には，治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。[妊娠中の使用に関する安全性は確立していない。]

11. 小児等への投与

低出生体重児，新生児に対する安全性は確立していない（使用経験が少ない）。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当記載事項なし

13. 過量投与

該当記載事項なし

14. 適用上の注意

眼科用として角膜，結膜には使用しないこと。誤って眼に入った場合は，刺激症状があらわれることがあるので，流水で十分に目をすすぐこと。

15. その他の注意

動物実験（モルモット）において，本剤に弱い光毒性が認められている。

16. その他

該当記載事項なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤	テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「NIG」	なし
有効成分	テルビナフィン塩酸塩	なし

2. 有効期間又は使用期限

外装に表示の使用期限内に使用すること。（3年：安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

該当記載事項なし

(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有

(3) 調剤時の留意点について

該当記載事項なし

5. 承認条件等

なし

6. 包装

10g×10本

7. 容器の材質

アルミニウムチューブ，ポリプロピレン製キャップ

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ラミシールクリーム 1%

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	承認年月日	承認番号
テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「NIG」	2006年2月20日	21800AMZ10090000

旧販売名	承認年月日	承認番号
テルビナフィン塩酸塩クリーム 1% 「タイヨー」	2006年2月20日	21800AMZ10090000

11. 薬価基準収載年月日

販売名	薬価基準収載年月日
テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「NIG」	2022年6月17日

旧販売名	薬価基準収載年月日
テルビナフィン塩酸塩クリーム 1% 「タイヨー」	2006年7月7日

12. 効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は，投薬期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「NIG」	2659710N1012 (統一収載コード)	621730103	117301703

旧販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
テルビナフィン塩酸塩クリーム 1%「タイヨー」	2659710N1012 (統一収載コード)	620004244	117301702

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 日医工岐阜工場株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 第十七改正日本薬局方解説書, C-3279, 廣川書店, 東京 (2016)
- 3) 日医工岐阜工場株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験)
- 4) 日医工岐阜工場株式会社 社内資料 (配合変化試験)

2. その他の参考文献

なし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

XIII. 備考

その他の関連資料

本項の情報に関する注意：

本項は、本剤の物理化学的安定性に関する情報であり、他剤と配合して使用した際の有効性・安全性についての評価は実施していない。また、配合した他剤の物理化学的安定性については検討していない。本剤を他剤と配合して使用する際には、各薬剤の添付文書を確認し、判断すること。

<テルビナフィン塩酸塩クリーム 1% 「NIG」の配合変化試験>⁴⁾

○試験方法

テルビナフィン塩酸塩クリーム 1% 「NIG」と各配合製剤を 1:1 の割合で配合（軟膏板とヘラを用いて 15 分以上十分に混合）し、プラスチック製気密容器で保管した。

○試験結果

(保存条件：室温（遮光）、気密容器)

配合検体 [成分名]	試験項目	配合直後	2 週間後	4 週間後
亜鉛華軟膏「ホエイ」 [亜鉛華軟膏]	外観	白色	白色	白色
	pH	6.92	6.96	7.03
	定量 ¹⁾ (%)	100	100	99.9
アズノール軟膏 0.033% [ジメチルイソプロピルアズレン]	外観	淡青白色	淡青白色	淡青白色
	pH	6.15	6.21	6.27
	定量 ¹⁾ (%)	100	99.4	99.6
ハスレン軟膏 0.033% [ジメチルイソプロピルアズレン]	外観	淡青白色	淡青白色	淡青白色
	pH	5.85	6.15	6.14
	定量 ¹⁾ (%)	100	98.9	99.4
リンデロン VG 軟膏 0.12% [ベタメタゾン吉草酸エステル・ ゲンタマイシン硫酸塩]	外観	白色	白色 分離	白色 分離
	pH	5.15	5.12	5.11
	定量 ¹⁾ (%)	100	100.0	100.0
ジフェンヒドラミンクリーム 1% 「タイヨー」 [ジフェンヒドラミン]	外観	白色	白色	白色
	pH	7.14	7.13	7.14
	定量 ¹⁾ (%)	100	100.0	99.5
ゲンタマイシン硫酸塩軟膏 0.1% 「タイヨー」 [ゲンタマイシン硫酸塩]	外観	白色 わずかに分離	白色 分離	白色 分離
	pH	5.35	5.24	5.21
	定量 ¹⁾ (%)	100	100.8	101.0
ヒルドイドクリーム 0.3% [ヘパリン類似物質]	外観	白色	白色	白色
	pH	6.72	6.83	6.84
	定量 ¹⁾ (%)	100	99.8	99.1
ヒルドイドソフト軟膏 0.3% [ヘパリン類似物質]	外観	白色 液化	白色 液化	白色 液化
	pH	5.40	5.39	5.36
	定量 ¹⁾ (%)	100	98.8	98.2

1) 配合直後の含量を 100 とした残存率で示した。

(名称：2013 年 1 月現在)